
AD(アフターディナー)

アザとーさん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アフターディナー
AD

【Nコード】

N8801Z

【作者名】

アザとーさん

【あらすじ】

自称『ファミレス通』の男があなたを深夜のファミレスの世界へ
とご案内します。

クリスマス商戦が終わったばかりのファミレスは客が少ない。まして深夜ともなれば、冷たい夜風に常連たちの足も遠のく。閑散とした店内には俺と学生らしい4人組しか客はいない。

冬休みに浮かれているのか、彼らは遅くなってから入店してきた。『ハンバーグと大ライス』という、深夜には重すぎる食事をぺろりと平らげ、食後の談笑を楽しんでいる。

時間は閉店三十分前。そろそろラストオーダーの時間だ。

俺は読み掛けの本を伏せると、空になったフライドポテトの皿をテーブルの隅に寄せた。オーダーストップを告げに来た店員のため

に。空になったカップを皿の上に重ねる。カップなのがミソだ。これがグラスの類だと、陶器の肌とガラスの質感はうまくかみ合わず、さらにポテトの油が潤滑剤となって不安定になる。グラスは皿の横に並べておくのがベストだ。ポーションミルクやガムシロップの空き容器も皿の上にとめると、テーブルの上には、飲んでいる最中のコーヒーだけが残る。

俺ぐらいの常連ともなると、これが正しいファミレスの作法であることは心得ているのだ。

今日の店員はおばちゃんというにはまだ若い、さりとお姉さんと呼ぶには少しばかり年上すぎる年頃の、いわゆるベテラン。

何も言わずとも、片手を軽く上げただけで俺の言いたいことは十二分に伝わった。彼女はにこやかに会釈すると、もうひと組の……あの賑やかな4人組のテーブルへと向かった。

注文などあるわけがない。彼らは今まさにハードな夜食を食べ終えたばかり。

「失礼いたします。オーダーストップのお時間ですが……」

彼らの答えは俺の、そして店員の期待をも裏切ったものだった。

「あ、じゃあ……ですね。」
メニューをめくりながら注文する彼の声が店内に響く。
フライドポテトをふた皿、デザートがパフェと、お勧めと……都合四つ。

ラストオーダーだと！

厨房の方ではすでに片付けも終わり、後はスイッチを落とすだけになっているはず。ここからのラストオーダーは、彼女たちが閉店時間を過ぎて『時給のつかない残業』を強いられることを示している。

それでも彼女はにこやかな表情を崩さない。落ち着いて復唱しながら、オーダーを打ち込んでいく姿は素晴らしいとしか言いようがない。

ラストオーダーを受けた店員の中には、あからさまにいやな顔をする者がいる。ひどい時には口調まで明らかにローテンションになるものがあるが、俺みたいな常連から言わせると論外である。深夜料金まで払っている客に対して、営業スマイルすらサービスできないようなやつは『接客業』を名乗る資格すら無い。まあ、そこまで悪質な者は少数だが。

たいていの店員は笑顔だが、焦りが見てとれる。ろくろく復唱もせずにオーダーミスをするのはまだ序の口。パフェをテーブルに倒して、割れものと生クリームでぐちゃぐちゃになったテーブルを片づけているのを見たこともある。常連の俺に言わせれば、余計な仕事を増やすよりは落ち着いて行動した方がましなんじゃないか？ ところだ。

だが、あの店員はそのどちらでもない。完璧だ。

客に対する礼を決して損なわず、ミスを犯さないように細心の注

意を払う態度は、俺の長いファミレス通人生の中でもトップクラスの素晴らしさだ。

そんな彼女の足手まといにならないように、俺は帰るとしよう。このコーヒーを飲みほして……

厨房の方にはわかに活気づいた。洗い終わった調理器具が油の中で派手な音を立てる。すでにしまい終わっていた食材をひっぱりだす為に、走り回っている様子も見える。

そんな騒ぎが聞こえていないのか、例の4人組はまだメニューをのぞいている。

「どうする〜?」

「まだ大丈夫なんじゃね?ポテトが来たら頼めば。」

……もちろん、彼女は笑顔のままそれを受けるのだろう。だろうとは思うが、もしかしたら……

酔っ払いの下ネタにも、わがままを言う客にも笑顔で対応する彼女を、俺はひそかに『笑顔という名の無表情』と呼んでいる。その無表情が崩れるようなことがあるのなら、ぜひとも見てみたい。

俺は空になったカップをコーヒーで満たす為に、ドリンクバーへと向かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8801z/>

AD(アフターディナー)

2011年12月28日02時46分発行